科　目　名	文章の表現Ⅰ	分類	教養・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Composition Ⅰ	1	前期	2
ふりがな 担当者名	はしもと　し　ほ 橋　元　志　保	テーマ	論理的文章の書き方の基本を身につけよう	

【授業概要】

言葉とは何でしょうか。わたしたちは、ごく幼い時期から現在に至るまで、ほぼ毎日言葉を使用して生活しています。しかし、わたしたちが日常使用する「話し言葉」と、文章を書く時に用いる「書き言葉」は似て非なるものです。「話し言葉」と「書き言葉」の乖離は、現代語においては僅少化していますが、「書く」という行為を前にして、つい身構えてしまう人も少なくないでしょう。

本講義では、論理的文章の基本的な作成方法を学びます。まずは何のために書くのか、何を伝えたいのか、テーマを明確にした文章を作成するために、構想をたて、アウトラインを作り、正確に表記するスキルを学んでいきます。またいわゆる名文と呼ばれる、様々な特色や美しさを持った文章に触れることで、文章に対する豊かな感受性も養っていきましょう。

授業計画
第１回 より良い文章を書くために①
第２回 論理的文章とは
第３回 エッセイの書き方①
第４回 エッセイの書き方②
第５回 テーマの設定と資料の検索
第６回 論作文を書いてみよう①
第７回 論作文を書いてみよう②
第８回 論作文を書いてみよう③
第９回 語彙・句読点・文体について
第 10 回 表現と内容
第 11 回 表現とテーマ
第 12 回 表現と文体
第 13 回 論説文を読みとく
第 14 回 論説文の文章核
第 15 回 総括
第 16 回 前期試験

テキスト	辰濃和男『文章のみがき方』(岩波新書　２００７年)
参考文献	授業の際に、紹介する。
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。
内容的に関連する科目	文章の読み方、小論文の書き方、文章の表現Ⅱ

科　目　名	文章の読み方	分類	教養・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Study of Modern Japanese Literature	1	前期	2
ふりがな 担当者名	はしもと　し ほ 橋　元　志　保	テーマ	読解力と表現力	

【授業概要】

「読むこと」は「書くこと」同様、創造的な行為であるということは、昨今の文学研究における共通理解となっています。つまり、あなたの目の前に存在する文章は、あなたが読まなければただのインクの染み、活字の羅列に過ぎません。読者であるあなたが「読むこと」によって、初めて活字は言葉となり、文章は理解され、意味を持つのです。

「本を読む人は、もう一人の親友を持っているようなものだ」とは良くいわれることですが、「読むこと」の可能性は、常にあなた自身の前に開かれています。「読むこと」によって、わたしたちは可視の世界を超えた様々な事物に出会うことが出来ます。また、「読むこと」はあらゆる勉学の基礎でもあります。

本講義は、様々な分野の本を「読むこと」によって、読解力とそれを表現する力を養い、自分自身の思考を深めていく一助にしたいと考えています。

授業計画
第１回 「読むこと」と「書くこと」－研究のための読書とは－
第２回 文章の構成・表現・文体とは
第３回 小説を読む①－漱石・鷗外・芥川から－
第４回 小説を読む②－漱石・鴎外・芥川から－
第５回 小説を読む③－漱石・鴎外・芥川から－
第６回 論説文を読む①
第７回 論説文を読む②
第８回 論説文を読む③
第９回 詩（韻文）を読む①
第 10 回 詩（韻文）を読む②
第 11 回 論文の構造－要約・引用とテーマについて－
第 12 回 論文を読む①－神話・文学・文化人類学から－
第 13 回 論文を読む②－神話・文学・文化人類学から－
第 14 回 論文を読む③－神話・文学・文化人類学から－
第 15 回 総括
第 16 回 前期試験

テキスト	資料を配付する。
参考文献	授業の際に、紹介する。
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。
内容的に関連する科目	小論文の書き方、文章の表現Ⅰ・Ⅱ、教養ゼミナール

科　目　名	地理学の基礎Ⅰ	分類	教養・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Geography Ⅰ	1	前期	2
ふりがな 担当者名	上村（うえむら）　康之（やすゆき）	テーマ	日本の地誌と東アジア・ロシア極東の地誌	

【授業概要】

この授業は、地理学（授業では地理学の基礎Ⅱ）を系統的に学ぶ前の基礎知識として、日本及び周辺諸国の地誌を学ぶものとする。日本地誌では、総論として日本の国土と自然の特徴をとらえたあと、各地方別にいくつかの地域をとりあげ産業、交通、文化などの視点から動的地誌の形をとった授業とする。外国地誌では、東アジア・ロシア（極東地域）の地誌をとりあげ、民族と国家の特色や課題、日本との関係に視点を置いた内容とする。

○　地理学の基礎Ⅰ・Ⅱを通年で受講することが望ましい。

授業計画
第１回　地理学とは何か、日本の国土と自然１
第２回　日本の国土と自然２
第３回　北海道
第４回　東北
第５回　関東・東海・近畿１
第６回　関東・東海・近畿２
第７回　北陸・甲信越
第８回　中国・四国
第９回　九州
第 10 回　沖縄
第 11 回　現代の国家と民族問題
第 12 回　中国
第 13 回　モンゴル
第 14 回　韓国
第 15 回　ロシア極東地方
第 16 回　前期試験

テキスト	テキストは使用しない。プリントを適宜、配付する
参考文献	帝国書院編集部編『新詳高等地図　最新版』帝国書院、2008 年
単位認定の方法	定期試験とレポートの内容により、総合的に評価する。
内容的に関連する科目	産業と地域Ⅰ・Ⅱ、人間と地域、自然と地域、地誌

科　目　名	家族の危機と変容	分類	教養・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Crises and Transformations of Family	2	前期	2
ふりがな 担当者名	しょうじ　まこと 庄司　信	テーマ	家族の機能と危機・変容の諸相	

【授業概要】家族は誰にとっても身近であるという点で格好の社会学入門のテーマである。社会の「基礎集団」としてどのような「役割（機能)」が期待され、どのようにしてその「秩序」は成り立っているのか。また、昨今どのような「危機」や「変容」が問題となっているのか。前者のような問は「社会一般の成り立ち」を考えることにつながり、後者のような問は家族をとりまく現代社会の様々な動向や変化についての理解を必要とする。つまり、家族についてあれこれ論じながら、一方で社会科学的なもの見方・考え方を学んでもらうとともに、他方で現代社会全般についての理解と関心を深めてもらうことをねらいとしている。さらに、家族の主要な機能の一つは「子供を育てること」なのだから――それが今なかなかうまくいかなくなってきている――、今の皆さんが、家族との対立や家族以外の影響も含めて、どのように形成されてきたのか、またどのような＜生＞の形を知らず知らずのうちに強要されているのか、を振り返る（自己認識・反省）きっかけになってくれればという期待も抱いている。それが社会科学を学ぶことの重要な意義の一つだからである。

授業計画

第１回　社会（科）学的なものの見方・考え方（概念や論理）の効用と弱点と分かりにくさ――例えば現代社会の世相を描く小説（物語）とどこが違う？自然科学とどこが違う？

第２回　出発点としての「問題」――家族の「危機」と「変容」あれこれ

第３回　「危機」という判断の暗黙の前提を問う――家族の「社会的機能」と「規範的期待」

第４回　社会一般が成り立つための「機能要件」から家族の「社会的機能」を考える

第５回　「機能的等価物」――「危機」それとも「変容」？

第６回　「規範的期待」――「愛の共同体」というイデオロギー／「意味の世界」を生きる人間／「心」と社会

第７回　「絆」としての「愛情」と「利害」と「信頼」――家族を学校や企業と「比較」しよう

第８回　「近代社会」における「近代家族」――社会の「機能的分化」と家族の変化／分析枠組みとしての「家族―学校―地域―経済―国家―文化」

第９回　近代社会の原理としての「自由」「平等」「競争」「共同」と家族――「個人主義」は「危機」の元凶か

第 10 回　経済のサービス化、消費社会化と家族――家族の「市場化」と「性別役割分業」の動揺、他者との関わりを避けて生きる可能性の増大

第 11 回　情報化、グローバル化と家族――「地域」の衰退とネットワーク社会化、etc.

第 12 回　家族と学校――学校の社会的機能、「社会の学校化」

第 13 回　少子高齢化と家族――子供の外遊び集団の激減／子供を嫌い負担と感じる大人／動物やロボットも家族？

第 14 回　福祉国家の再編と家族政策

第 15 回　インフォーマルセクターへの注目と家族の今後

テキスト	コピーを配布する
参考文献	適宜紹介する
単位認定の方法	出席とレポートまたは試験の成績
内容的に関連する科目	

科　目　名	日本の歴史Ⅰ	分類	教養・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Japanese History Ⅰ	1	前期	2
ふりがな 担当者名	わたなべ　すぐる 渡　邉　　俊	テーマ	日本古代・中世史の把握	

【授業概要】
政治・経済・社会・文化など、あらゆる観点から日本史を考察する。日本に対する理解を深めるとともに、歴史の流れを把握することを目標としたい。
また、東アジア情勢や東北地方の動向などにも目配りしながら多角的に日本史を考察する。前期は古代・中世史を扱う予定である。

授業計画　　前　期
第１回　ガイダンス：日本史の見方・方法
第２回　倭王権の展開
第３回　律令国家の形成
第４回　律令国家の構造
第５回　律令国家の変容
第６回　院政と武門の台頭
第７回　内乱と武家政権の成立①
第８回　内乱と武家政権の成立②
第９回　京都と鎌倉
第 10 回　宗教勢力の動向
第 11 回　蒙古襲来と幕府の崩壊
第 12 回　南北朝内乱と室町政権
第 13 回　室町期社会の政治・文化
第 14 回　一揆の時代
第 15 回　戦国大名の登場
第 16 回　試験

テキスト	特に使用しない。レジュメを配布する。
参考文献	佐々木潤之介ほか編『概論日本歴史』（吉川弘文館、2000 年）など。講義のなかで随時、紹介する。
単位認定の方法	総合評価とする。評価ポイントは重視する方から①期末試験結果、②課題、③出席、の順である。※私語厳禁
内容的に関連する科目	日本の歴史Ⅱ

科　目　名	自然の科学Ⅰ	分類	教養・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Natural Sciences Ⅰ	1	前期	2
ふりがな 担当者名	むらなか　たかし 村中　孝司	テーマ	自然界におけるさまざまな現象と生命の由来	

【授業概要】

私たちは自然についてどれだけのことを知っているのだろうか．地球が誕生して 46 億年，生物が誕生して 38 億年，現在，私たちが地球上で見ることのできる生物の多様さはどのようにしてつくり出されてきたのだろうか．残念ながら，そのようなさまざまな自然現象については，その多くが明らかにされているとはいえない．自然とその現象に対する私たちの知識は，ほんの一部の「断片」に過ぎないのである．講義では特に生物の世界を取り巻く現象を取り上げ，(1) 生物と環境，または生物と生物の関係，個体・集団の維持機構など，自然界における生物の基本的な特性を紹介し，(2) 生物の誕生と進化の「謎」を多くの仮説・実験・検証を交えながら考えることを目指す．

授業計画	
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	地球上のさまざまな生物とその種類，かたちと機能
第 3 回	生物と環境
第 4 回	動物の行動とコミュニケーション
第 5 回	植物の成長と繁殖
第 6 回	菌類と微生物：　謎の多い生命体
第 7 回	生物と生物の多様な関係，食物連鎖と生態系ピラミッド
第 8 回	生物間相互作用：花粉や種子を巡る植物と動物の共生関係
第 9 回	生物の個体維持機構
第 10 回	生物群集の時間的・空間的分布
第 11 回	生物の個体発生：　遺伝子は生物の形態や特性をどこまで決定しているか
第 12 回	生物の進化と多様性(1)：生命とは何か・進化のメカニズム．細菌から真核生物へ
第 13 回	生物の進化と多様性(2)：個体発生は系統発生を繰り返す．原生動物から動物，菌類へ
第 14 回	生物の進化と多様性(3)：植物(光合成生物)の誕生と進化．原生動物から藻類，植物へ
第 15 回	生物の進化と多様性(4)：生物の陸上への進出と共進化．進化の大実験
第 16 回	試験

テキスト	配布資料
参考文献	宮脇昭『植物と人間』，板倉聖宣『科学的とはどういうことか』ほか
単位認定の方法	試験，レポート・ミニテスト(随時実施する)
関連科目	自然の科学Ⅱ，数学のはなしⅠ・Ⅱ，環境のはなしⅠ・Ⅱ

科　目　名	倫理学Ⅰ	分類	教養・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Ethics	2	前期	2
ふりがな 担当者名	中橋（なかはし）　誠（まこと）	テーマ	主要な倫理学的思惟	

【授業概要】

自動車のない社会、畳のない社会、王様のいない社会は実際にいままで存在しましたが、倫理のない社会が存在したことはありません。今後もないでしょう。倫理がなければ、社会はありえません。もちろん、わたしたち自身の生活もありません。にもかかわらず、わたしたちは、たとえば人間関係において「これは良い」「これが好き」「これは駄目だ」など様々な倫理的な判断を日々くだしながらも、社会的生活を営むうえで不可欠な倫理的規則を自覚することがほとんどありません。これでは、わたしたちの人間関係も行き当たりばったりのものとなってしまうでしょう。そうならないためには、わたしたちが従ってしまっている倫理的規則を明確なものにすることが必要でしょう。これが授業の目標です。

授業計画
第１回　イントロダクション：殺人はすべて悪いのか。
第２回　倫理的自覚の発生条件
第３回　倫理学的思惟の萌芽
第４回　絶対的価値は存在するか。
第５回　絶対的価値は存在しないか。
第６回　一つしかない薬は誰に与えるべきか。（１）
第７回　一つしかない薬は誰に与えるべきか。（２）
第８回　一つしかない薬は誰に与えるべきか。（３）
第９回　嘘は許されないか。（１）
第 10 回　嘘は許されないか。（２）
第 11 回　怒りはどこから生じるのか。
第 12 回　正義とは何か。
第 13 回　義務は何に由来するか。（１）
第 14 回　義務は何に由来するか。（２）
第 15 回　義務は何に由来するか。（３）
第 16 回　テスト

テキスト	なし
参考文献	適宜指示します。
単位認定の方法	平常点と期末試験
内容的に関連する科目	哲学のみちしるべ、哲学のあしあと、倫理学Ⅱ

科　目　名	環境のはなしⅠ	分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Ecology and Environmental Sciences Ⅰ	2	前期	2
ふりがな 担当者名	むらなか　たかし 村中　孝司	テーマ	地域・地球規模の環境問題 資源・エネルギー問題	

【授業概要】

地球温暖化，酸性雨，オゾン層破壊，森林破壊，砂漠化など，地球規模の環境の悪化は人間社会に非常に多くの被害をもたらす．これらの地球規模の環境破壊の根本的原因は，いずれも人間の行き過ぎた産業活動の結果生み出されたものである．講義では，(1) 地域および地球環境問題の実態，原因，影響，取り組み，公害問題と環境問題，(2) 環境問題の歴史，(3) 環境問題の原因となっている資源・エネルギー問題に触れ，地球環境問題の実態と予防策について考察する．

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	人間社会における「環境問題」：公害から環境問題へ
第 3 回	地球温暖化（1）：地球温暖化とは
第 4 回	地球温暖化（2）：地球温暖化の被害予測
第 5 回	酸性雨・酸性霧・酸性雪
第 6 回	オゾン層の破壊
第 7 回	砂漠化と森林破壊
第 8 回	化学物質による環境汚染（1）：人体への健康被害と生物濃縮
第 9 回	化学物質による環境汚染（2）：環境指標生物と環境調査
第 10 回	環境問題の歴史
第 11 回	生物地球化学的循環，循環型社会
第 12 回	資源・エネルギー問題（1）：化石資源と世界人口の増加
第 13 回	資源・エネルギー問題（2）：3R（リデュース，リユース，リサイクル）
第 14 回	資源・エネルギー問題（3）：身近な生活から始められる環境問題対策
第 15 回	資源・エネルギー問題（4）：新エネルギー開発と利用
第 16 回	試験

テキスト	配付資料
参考文献	富山和子『環境問題とは何か』，御代川貴久夫『環境科学の基礎』 地球環境研究会『地球環境キーワード事典』，北山雅昭編著『環境問題への誘い』ほか
単位認定の方法	試験，レポート・ミニテスト（随時実施）
関連科目	自然の科学Ⅰ・Ⅱ，環境のはなしⅡ，農業と経済

科　目　名	現代社会と経済	分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Basic　Economics Ⅰ	1	前期	2
ふりがな 担当者名	しらかわきんや 白川欽哉	テーマ	経済学の基礎を学ぶ	

【授業概要】

本講義の第一の目的は、経済学の基礎知識を身につけることにあります。私たちの日常生活は、想像も及ばないほどに経済の動きに影響を受けています。経済の動きがどのような形で私たちの生活に影響を及ぼすのかを正しく理解する必要があります。第二の目的は、経済や経済学に対する興味・関心を引き出し、後期科目の入門経済学（必修）などの本格的な経済学の学習に導くことをねらいとしています。

授業計画
第１回　イントロダクション
第２回　雇用と賃金・労働条件（1）
第３回　雇用と賃金・労働条件（2）
第４回　雇用と賃金・労働条件（3）
第５回　生活と福祉（1）
第６回　生活と福祉（2）
第７回　生活と福祉（3）
第８回　市場の本質と機能（1）
第９回　市場の本質と機能（2）
第 10 回　資本と利潤（1）
第 11 回　資本と利潤（2）
第 12 回　巨大企業と独占（1）
第 13 回　巨大企業と独占（2）
第 14 回　貨幣と信用（1）
第 15 回　貨幣と信用（2）
第 16 回　期末試験

テキスト	角田修一編『社会経済学入門』大月書店、2003 年。
参考文献	講義中に適宜お知らせします。
単位認定の方法	期末試験、出席などから総合的に評価する。
内容的に関連する科目	入門経済学（後期、必修）

科　目　名	マクロ経済学	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Macroeconomics	2	前期	2
ふりがな 担当者名	きたの ゆうじ 北野　友士	テーマ	GDP、IS/LM 分析	

【授業概要】
現在、世界経済は百年に一度とさえ言われる未曾有の不況下にあります。それでは、そもそも不況とはどういう現象で、どのような原因で起こり、どのように対処すれば良いのでしょうか。この講義では、不況とは何かということを考える上で重要な指標である GDP や、対処方法を考えるための基本的なツールである IS/LM 分析について学びます。

授業計画

第１回	イントロダクション
第２回	マクロ経済と GDP
第３回	GDP の三面等価
第４回	有効需要と乗数メカニズム（1）需要と景気
第５回	有効需要と乗数メカニズム（2）限界消費性向と乗数
第６回	有効需要と乗数メカニズム（3）投資・政府支出と所得水準の決定
第７回	金利と貨幣需要
第８回	インフレと失業（1）フィリップス曲線
第９回	インフレと失業（2）インフレの社会的コスト
第 10 回	マクロ経済政策
第 11 回	財政政策のマクロ経済分析
第 12 回	財政・金融政策のメカニズム：IS-LM 分析（1）資産市場と財市場
第 13 回	財政・金融政策のメカニズム：IS-LM 分析（2）財政・金融政策
第 14 回	財政・金融政策のメカニズム：IS-LM 分析（3）IS-LM 分析
第 15 回	マクロ経済学のまとめ
第 16 回	期末試験

テキスト	伊藤元重『入門　経済学＜第 3 版＞』日本評論社
参考文献	講義中に適宜紹介します。
単位認定の方法	出席、小テスト（3～4 回実施予定）、および期末試験により評価します。なお、授業中の私語は減点対象となります。
内容的に関連する科目	現代社会と経済、入門経済学、国際経済学、公務員のマクロ経済学

科　目　名	仕事と暮らしの経済学	科目・分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Guide to Social Policy	２年	前期	２単位
ふりがな 担当者名	ふじもと　つよし 藤本　剛	テーマ	「社会政策・社会保障」入門編	

【授業概要】この科目は３年で学ぶ「労働について考える」「年金・保険を考える」（社会政策、社会保障）の入門編として、問題意識的にこれらの分野をかいま見るものです。職業リテラシーで学んだ仕事についての理解と知識に基づいて、賃金・労働時間・雇用と失業・雇用のさまざまな形態などについて今職の現場で起こっている問題を取り上げます。また生活を保障するシステムである年金・医療保険・生活保護やさまざまな福祉分野についても課題を取り上げ、主に経済の側からのアプローチを試みます。こうして経済を学ぶ意欲と意識の向上を図りたいと考えています。

授業計画　　前期
第１回　「働くこと」をめぐる様々な仕組みや制度について
第２回　年功賃金と成果主義
第３回　過労死・過労自殺はなぜ起こる
第４回　フリーターについて考えよう
第５回　様々な働き方について
第６回　女性と仕事と家事・育児
第７回　年金は将来受け取れるか
第８回　年金制度のどこが問題か
第９回　安心して医者にかかるために （医療費）
第 10 回　安心して医者にかかるために （医療システム）
第 11 回　クスリは怖い
第 12 回　セフティーネットとしての生活保護
第 13 回　健やかな老後をおくるためには
第 14 回　バリアフリーを考える
第 15 回　まとめと試験

テキスト	プリントを使用します
参考文献	『厚生労働白書』『労働経済白書』各年版
単位認定の方法	出席、レポート、試験等を総合評価します
内容的に関連する科目	キャリアの形成のためにⅠ、労働について考える、年金・保険を考える

科　目　名	財政のしくみ	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Public Finance Ⅰ	2	前期	2
ふりがな 担当者名	つかたに　　ふみたけ 塚　谷　文　武	テーマ	財政学の基礎知識を習得する	

【授業概要】

現代財政のしくみや原理、問題点や改革方向を理解するのは大変むずかしい。しかし、日常生活において国や地方自治体など公共部門の経済活動、いわゆる「財政」をぬきには語ることはできない。

本講義では、難解な現代財政のしくみや課題をわかりやすく解説し、その理解を深めることを目的としている。

授業計画
第１回　財政とは何か（1） 内容：現代財政の特質
第２回　財政とは何か（2） 内容：日本の予算制度
第３回　公共部門の役割と経費（1） 内容：経費の分類
第４回　公共部門の役割と経費（2） 内容：経費膨張の法則
第５回　公共部門の役割と経費（3） 内容：経費論の課題
第６回　租税の基礎理論（1） 内容：租税とは
第７回　租税の基礎理論（2） 内容：租税原則、租税制度、租税負担の構造
第８回　所得課税と消費課税（1） 内容：所得税、法人税
第９回　所得課税と消費課税（2） 内容：消費課税、資産課税
第 10 回　税制改革の理論と実際 内容：税制改革の原則と諸外国の税制改革
第 11 回　財政投融資（1） 内容：財政投融資制度の仕組みと特徴
第 12 回　財政投融資（2） 内容：財政投融資改革の方向性
第 13 回　地方財政（1） 内容：地方自治と地方財政
第 14 回　地方財政（2） 内容：地方財政調整制度
第 15 回　総括と展望
第 16 回　期末試験

テキスト	重森曉・鶴田廣巳・植田和弘『Basic　現代財政学〔新版〕』有斐閣、2003 年。
参考文献	講義中に適宜お知らせします。
単位認定の方法	期末試験（70%）、出席点（30%）を含めて成績評価を行う。
内容的に関連する科目	地方の財政（前期）、財政と国民生活（後期）

科　目　名	現代ファイナンス論Ⅰ	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Finance　Ⅰ	2	前期	2
ふりがな 担当者名	きたの ゆうじ 北野　友士	テーマ	貨幣、銀行、金利	

【授業概要】
　現在、銀行などの金融機関は、世界的な不況の原因となったこと、にもかかわらず公的資金が投入されることなどの理由から強い批判を浴びています。しかしながら、公的資金が投入されるということは、それだけ金融という分野が重要であることの裏返しでもあります。この講義では、経済の基盤としての金融を理解するため、基本的な要素である貨幣の機能や銀行の役割、金利について学びます。

授業計画
第１回　　イントロダクション
第２回　　交換経済と貨幣
第３回　　銀行制度と決済システム
第４回　　銀行と貨幣の創造
第５回　　貨幣の機能と金融
第６回　　資金の調達と運用
第７回　　金融仲介機関の機能
第８回　　資金の循環と金融取引
第９回　　市場取引と相対取引
第 10 回　短期金融市場
第 11 回　資本市場
第 12 回　金利とは何か
第 13 回　金利の決定
第 14 回　資産価格と金利
第 15 回　現代ファイナンス論Ⅰのまとめ
第 16 回　期末試験

テキスト	特になし。
参考文献	講義中に適宜紹介します。
単位認定の方法	出席、小テスト（3～4 回実施予定）、および期末試験により評価します。なお、授業中の私語は減点対象となります。
内容的に関連する科目	現代ファイナンス論Ⅱ、銀行の業務、証券市場とビジネスなど

科　目　名	資本主義経済のしくみⅠ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Capitalism　Today　Ⅰ	2	前期	2
ふりがな 担当者名	しまだ　こうや 嶋田　耕也	テーマ	資本主義経済の基礎	

【授業概要】
　資本とは一体何か、資本主義とは一体何か、その点を明確にすることで、私達が現に生活している経済システムの基礎を明かにする。商品、貨幣、資本、市場等、経済学に特有な言葉が無理なく理解できるようにするのが授業の目的である。

授業計画
第１回　はじめに、現代のグローバル経済
第２回　資本とは何か
第３回　資本主義の歴史Ⅰ
第４回　資本主義の歴史Ⅱ
第５回　雇用と賃金・労働条件Ⅰ
第６回　雇用と賃金・労働条件Ⅱ
第７回　市場の本質と機能
第８回　資本と利潤
第９回　巨大企業と独占Ⅰ
第 10 回　巨大企業と独占Ⅱ
第 11 回　貨幣と信用Ⅰ
第 12 回　貨幣と信用Ⅱ
第 13 回　小経営と土地所有
第 14 回　財政と国民経済Ⅰ
第 15 回　財政と国民経済Ⅱ
第 16 回　まとめとテスト

テキスト	角田修一編『社会経済学入門』
参考文献	授業の中で指示します
単位認定の方法	試験、レポート、出席の総合評価
内容的に関連する科目	

科　目　名	日本経済の歩みⅠ	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Japanese Economic History Ⅰ	2	前期	2
ふりがな 担当者名	すずき　たつろう 鈴木　達郎	テーマ	両大戦間期と戦後改革期の日本経済	

【授業概要】

本講義の課題は、両大戦間期と戦後改革期を対象として、日本経済の特質を明らかにすることにある。２年後期からの「日本経済の動きとしくみⅠ」との連係を考慮して、「日本経済の歩みⅡ」と対象とする時期を逆転させる。まず、第１次世界大戦から第２次世界大戦にかけての日本経済を検討し、なぜ日本は「軍事大国」への道を歩むことになったのかを考察する。次いで、戦前型経済システムの解体をもたらしたと同時に、戦後型経済システム成立の前提ともなった戦後改革を考える。

授業計画
第１回　講義案内――近・現代日本経済の見取り図
第２回　大戦景気と慢性不況
第３回　井上財政
第４回　昭和恐慌
第５回　高橋財政
第６回　日中戦争期の統制経済
第７回　太平洋戦争期の統制経済
第８回　両大戦間期の日本経済の総括と確認テスト①
第９回　占領政策
第 10 回　財閥解体
第 11 回　労働改革と農地改革
第 12 回　傾斜生産方式
第 13 回　ドッジラインと朝鮮戦争特需
第 14 回　労使の攻防
第 15 回　戦後改革期の日本経済の総括と確認テスト②

テキスト	テキストは使用しない。講義のなかで資料を配付する。
参考文献	講義のなかで紹介する。
単位認定の方法	出席および２回の確認テストによって総合的に判断する。
内容的に関連する科目	日本経済の動きとしくみⅠ、欧米の産業と交易の歴史Ⅰ・Ⅱ

科　目　名	欧米の産業と交易の歴史　Ⅰ	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	European and American Economic History Ⅰ	2	前期	2
ふりがな 担当者名	しらかわ　きんや 白川　欽哉	テーマ	19 世紀欧米経済の史的源流	

【授業概要】本講義では、世界史のさまざまな事象を、生産と流通を軸に類型化するとともに、それを各国の特殊事情と対比させながら分析を試みます。講義は平易な表現で行うこと心掛け、専門用語については可能な限り詳しく解説します（プリントを配布)。講義では、諸外国の経済史をとりあげます。普段聞き慣れない地名（例：フランドル・ブラバントなど）や当該地域の産業についての説明が登場しますので、欧米の地誌についてあらかじめ勉強しておいて下さい。

授業計画

第１回　欧米の経済史を学ぶ

第２回　ヨーロッパの誕生

第３回　十字軍と「商業の復活」

第４回　ヴァイキングロードと商業

第５回　自治都市の形成と発展

第６回　中世の商業組織

第７回　大航海時代以降の構造転換

第８回　オランダの独立と繁栄

第９回　毛織物の生産と輸出をめぐる競争

第 10 回　オランダの凋落とイギリスの台頭

第 11 回　イギリス綿工業の勃興と成長

第 12 回　イギリス国内商業の展開

第 13 回　フランス革命と「営業の自由」

第 14 回　ドイツ関税同盟と鉄道建設

第 15 回　総まとめ

第 16 回　試験

テキスト	石坂昭雄・舟山榮一・宮野啓二・諸田實編著『西洋経済史』(有斐閣)
参考文献	石坂昭雄・壽永欣三郎・山下幸夫・諸田實編著『商業史』(有斐閣)
単位認定の方法	定期試験の点数と出席率の総合評価（出席３分の２以上の学生のみ評価します）
内容的に関連する科目	日本経済の歩みⅠ＆Ⅱ、企業と経営者の歴史

科　目　名	経済政策のしくみ	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		2	前期	2
ふりがな 担当者名	のぐち　ひでゆき 野口　秀行	テーマ	２１世紀の日本経済の行方	

【授業概要】
　戦後わが国は、その国土は焦土と化すとともに対外資産の放棄を余儀なくされ、極度の資本不足に陥る。しかしながら、日本経済は、そこから不死鳥のように復活し、世界でも最も富裕な国へ変貌を遂げた。本講義では、日本経済の復活と経済政策との関連を学ぶとともに、今後予想される総人口の減少、地球温暖化などの環境制約、資源制約、BRICS の台頭など、日本経済を取り巻く諸課題を克服していくための経済政策について検討する。

授業計画
第１回　　復興金融公庫および傾斜融資　護送船団方式の採用
第２回　　臨海工業団地の創生とその背景（発想の転換）
第３回　　太平洋戦争の失敗から生まれた日本工業規格
第４回　　1950 年代に創業した企業群（ソニーとホンダ）
第５回　　エネルギー転換（石炭から石油へ）と通産省のエネルギー政策
第６回　　オイルショックと産業構造転換（重厚長大から軽薄短小へ）
第７回　　田中列島改造計画と国土政策の破綻
第８回　　ジャパンアズナンバーワンと日米欧の貿易戦争
第９回　　バブル経済と日銀金融論の破綻
第 10 回　ビル・エモット「日はまた沈む」
第 11 回　国民の犠牲の下でのメガバンクの不良債権の処理
第 12 回　金融ビッグバンと護送船団方式
第 13 回　科学技術大国の道（ナノテク・ＩＴ・バイオそれでも金型）
第 14 回　ビル・エモット「日はまた昇る」
第 15 回　石油高騰とサブプライムローン問題（RMBS、CDO、ABCP）

テキスト	プリント配布
参考文献	追って連絡します
単位認定の方法	試験の成績ならびに出席状況により総合的に判断
内容的に関連する科目	マクロ経済　ミクロ経済

科　目　名	経済学の歴史Ⅰ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	History of Economic Thought Ⅰ	2	前期	2
ふりがな 担当者名	しまだ　こうや 嶋田　耕也	テーマ	経済学の誕生	

【授業概要】

経済学がどのようにして成立してくるのか。それを明かにするのが経済学の歴史Ⅰの目的です。封建社会の解体から近代社会が生まれ、それと同時に経済学の歩みが始まります。前期では経済学の父としてのアダム・スミス理論がどのようにして成立するか、それが中心となります。

授業計画
第１回　はじめに、いわゆる新自由主義の理論と現代
第２回　近代社会の成立Ⅰ
第３回　近代社会の成立Ⅱ
第４回　重商主義経済学の理論
第５回　産業革命とフランス革命Ⅰ
第６回　産業革命とフランス革命Ⅱ
第７回　アダム・スミスの経済学Ⅰ
第８回　アダム・スミスの経済学Ⅱ
第９回　アダム・スミスの経済学Ⅲ
第 10 回　古典学派の成立Ⅰ
第 11 回　古典学派の成立Ⅱ
第 12 回　自由主義政策体系Ⅰ
第 13 回　自由主義政策体系Ⅱ
第 14 回　古典学派批判Ⅰ
第 15 回　古典学派批判Ⅱ
第 16 回　まとめとテスト

テキスト	板書をノートにとって下さい。それがテキストです。
参考文献	授業中に指示します
単位認定の方法	試験、レポート、出席の総合評価
内容的に関連する科目	

科　目　名	地方の財政	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Local Public Finance	3	前期	2
ふりがな 担当者名	つかたに　ふみたけ 塚　谷　文　武	テーマ	国と地方の財政関係を理解する	

【授業概要】
地方財政は、2000 年地方分権一括法の施行や第 2 期三位一体改革など地方分権改革が進められるなかで、重大な局面を迎えている。本講義では、地方分権改革に関する最新の動きを素材としながら、地方財政の基本的なしくみや課題を解明することを目的としている。

授業計画
第１回　地方財政と社会・経済（1） 内容：地方財政の地位と役割
第２回　地方財政と社会・経済（2） 内容：集権から分権へ
第３回　国と地方の財政関係（1） 内容：国と地方の財政規模
第４回　国と地方の財政関係（2） 内容：税財政の分権改革
第５回　予算制度（１） 内容：財政民主主義と予算
第６回　予算制度（２） 内容：地方予算制度と改革課題
第７回　地方税（1） 内容：地方税の地位と役割
第８回　地方税（2） 内容：地方税体系と租税原則
第９回　地方交付税（1） 内容：地方財政調整と地方交付税
第 10 回　地方交付税（2） 内容：地方交付税改革
第 11 回　国庫支出金（1） 内容：国庫支出金の仕組み
第 12 回　国庫支出金（2） 内容：国庫支出金の現状と改革課題
第 13 回　地方債（1） 内容：地方債制度の概要
第 14 回　地方債（2） 内容：地方分権時代の地方債制度
第 15 回　総括と展望
第 16 回　期末試験

テキスト	和田八束・星野泉・青木宗明編『現代の地方財政（第 3 版）』有斐閣、2004 年。
参考文献	講義中に適宜お知らせします。
単位認定の方法	期末試験（70%）、出席点（30%）を含めて成績評価を行う。
内容的に関連する科目	財政のしくみ（前期）、財政と国民生活（後期）

科　目　名	コミュニティビジネス	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	前期	2
ふりがな 担当者名	のぐち　ひでゆき 野口　秀行	テーマ	コミュニティ・ビジネスが地域を活性化する	

【授業概要】

コミュニティ・ビジネスの目的は、住民主体のスモールビジネスを導入し、コミュニィテイに存在する様々な問題の解決貢献することにあるが、それはボランティアと企業の中間的な領域に位置しているものであり、地域社会のネットワークに支えられて、成立しうるものでもある。各地で芽吹きつつあるコミュニティ・ビジネスは、バランスの取れた経済社会の発展を支えるという側面からみても、社会的な意義は大きいといえる。本講義では、コミュニィティ・ビジネスとそれを支えるコミュニティ・ファイナンスについて学ぶ。

授業計画

第１回	コミュニティ・ビジネスとは
第２回	もう一つの経済（ノン・プロフィット・エコノミー）
第３回	ＮＰＯとコミュニティ・ビジネス
第４回	欧米におけるコミュニティ・ビジネスの事例
第５回	我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例（１）
第６回	我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例（２）
第７回	我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例（３）
第８回	コミュニティ開発とコミュニティ・ファイナンス
第９回	コミュニティ・ファイナンスとは
第 10 回	米国におけるコミュニティ・ファイナンス
第 11 回	英国におけるコミュニティ・ファイナンス
第 12 回	我が国におけるコミュニティ・ファイナンスの事例（１）
第 13 回	我が国におけるコミュニティ・ファイナンスの事例（２）
第 14 回	地域ファンド・環境ファンド
第 15 回	地域づくりとコミュニティ・ビジネス

テキスト	プリント配布
参考文献	追って連絡します
単位認定の方法	試験の成績ならびに出席状況により総合的に判断
内容的に関連する科目	ＮＰＯの経営　地域づくり論

科　目　名	農業と経済	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Agricultural Economy	3	前期	2
ふりがな 担当者名	すずき　たつろう 鈴木　達郎	テーマ	日本農業―再生か解体か	

【授業概要】

1999 年に施行された食料・農業・農村基本法＝新基本法は、「食料の安定供給」を確保し、「多面的機能」を発揮する日本農業の「持続的な発展」をめざし、その基盤となる「農村の振興」を図ることを「基本理念」として掲げた。果たしてこの「基本理念」は現実のものとなるのであろうか。これが本講義のテーマである。まず、農業経済の基礎理論として、小農制農業と企業制農業との差異を学ぶ。次いで、それを理論的武器として、再生か解体かの重大な岐路に立たされている日本農業の現状を分析する。その上で、日本農業再生の方途を考えてみたい。

授業計画

第１回　課題と視角
第２回　企業制農業論①――イギリス農業の展開
第３回　企業制農業論②――農産物価格と地代
第４回　小農制農業論①――アメリカのファミリーファーム
第５回　小農制農業論②――日本の自作農
第６回　小農制農業論③――農産物価格と地代
第７回　小括と確認テスト①
第８回　農地改革
第９回　農業基本法
第 10 回　食料・農業・農村基本法
第 11 回　日本農業と食料安全保障
第 12 回　日本農業と環境保全
第 13 回　日本農業と地域振興
第 14 回　日本農業の再生
第 15 回　小括と確認テスト②

テキスト	テキストは使用しないが、講義のなかで資料を配付する。
参考文献	講義のなかで紹介する。
単位認定の方法	出席および２回の確認テストの結果によって総合的に判定する。
内容的に関連する科目	日本経済の動きとしくみⅠ・Ⅱ

科　目　名	労働について考える	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Social Policy	３年	前期	２
ふりがな 担当者名	ふじもと　つよし 藤本　　剛	テーマ	働くって何だろう	

【授業概要】３年になると就職活動が現実に間近になってきます。この授業では「働く」ときに直面することになるさまざまな問題を社会政策の側面から取り上げ、制度や仕組み、現状と課題などについて共に考えていきます。近年、年功序列、終身雇用などを特徴としてきたわが国の労働市場が、派遣やパート労働、契約雇用など流動性を増大させており、また成果主義による賃金の導入も拡大しています。２年の「仕事と暮らしの経済学」でも取り上げたさまざまな労働をめぐる問題について、より踏み込んで分析し、確かな判断力と今後への指針を得るのがこの科目の目標です。

授業計画
第１回　社会政策の考え方と歴史の流れ
第２回　労働市場をどう捉えるか（指標）
第３回　労働市場政策①（雇用・失業対策）
第４回　労働市場政策②（女性、若者）
第５回　労働市場政策③（高齢者、障害者、外国人）
第６回　労働時間をめぐる社会政策の流れ
第７回　今日の労働時間問題とワークシェアリング
第８回　賃金制度
第９回　賃金政策（最低賃金制など）
第 10 回　日本の賃金と賃金政策
第 11 回　今日の賃金問題（成果主義・年俸制など）
第 12 回　労使関係とは
第 13 回　労働組合
第 14 回　日本の労使関係（歴史）
第 15 回　日本の労使関係（現状）
第 16 回　まとめとテスト

テキスト	『公務員Ｖテキストシリーズ　社会政策』TAC 出版
参考文献	『労働経済白書』各年版
単位認定の方法	出席率、試験、レポート、メッセージカードの総合評価
内容的に関連する科目	年金・保険を考える、労働法

科　目　名	公務員のマクロ経済学	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Macroeconomics	３年	前期	２
ふりがな 担当者名	かねこ　みつや 金子　光	テーマ	マクロ経済学	

【授業概要】

「マクロ経済学」は、一国経済の全体像を捉えるものである。

この講義では、現実のマクロ経済現象を理論面・制度面・政策面から分析することによって、今後の日本の政治・行政・財政全般に関し、その政策形成に資する能力を身に付けることを目指す。特に、理論に関しては、「ケインズ経済学」を重点的に取り上げる。

講義内容は、公務員試験対策としてはもとより民間就職試験対策としても生かせるものとなっている。

授業計画
第１回　国民経済計算：GDP 統計の原則、三面等価の原則、産業連関表
第２回　国民所得の決定:有効需要の原理、45 度線分析
第３回　マクロ経済政策と財政・金融
第４回　IS－LM 分析、総需要管理政策
第５回　政府支出乗数・租税乗数などの乗数理論
第６回　消費と投資の理論：ケインズ型消費関数・クズネッツ型消費関数・ライフサイクル仮説
第７回　失業とインフレーション:AD－AS 分析・フィリップス曲線・自然失業率仮説
第８回　マクロ経済学論争：古典派・ケインズ派・マネタリズム・合理的期待形成学派
第９回　中立命題とマクロ経済政策の有効性
第 10 回　財政政策の有効性をめぐる議論：ブキャナン・ワグナーの公共選択論
第 11 回　国際金融・国際マクロ経済学
第 12 回　開放経済モデル:マンデル・フレミングモデル
第 13 回　マクロ経済政策と政策当局
第 14 回　景気循環と経済成長
第 15 回　経済成長と財政政策：ハロッド・ドーマーの成長理論、ソロー・モデル、内生的成長モデル
第 16 回　定期試験

テキスト	特定の教科書は用いない。必要に応じてレジュメ等を配布する。
参考文献	講義の際、適宜紹介する。
単位認定の方法	出席状況と定期試験の結果を基に総合的に評価する。
内容的に関連する科目	経済学部：「公務員のミクロ経済学」（後期） 経済学部：「公務員の数学Ⅰ」（前期） 経済学部：「公務員の数学Ⅱ」（後期） 経済学部：「景気の見方」（前期） 経済学部：「経済の統計」（後期）

科　目　名	もの作りの管理	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Introduction to Production Management　Ⅰ	3	前期	2
ふりがな 担当者名	あべ　ときお 阿部　時男	テーマ	現代のもの作りの現場	

【授業概要】生産管理を広義に定義するならば、“財貨の生産に関与する諸種の生産力の総合的調整によって企業全体としての生産力を最高度に発揮せしめる”（生産管理便覧、丸善）ことである。すなわち、物的ならびに人的生産力を合理的・効果的に組み合わせることによって経営目的達成のために諸活動を組織的・科学的に機能させ、高い生産能率をあげることである。そのためには、まず、設備・工具・動力の機械化そして管理面の情報化と人間工学的な合理化を図り、また、一方で労働力の能率的利用のための技能の養成と能力の開発を促進することである。

現代の生産管理は、部材の調達から、生産、そして、流通・消費にいたる一連の流れの中で機能することが求められている。すなわち、生産現場の管理から広くもの作りとしての製造業の管理の観点（ＳＣＭ）に生産を見つめて行かなければならない。その意味で、インダストリアル・エンジニアの知識のみならず幅広い経営の知識を学ぶことが不可欠である。この科目で取り扱う内容は、現代の製造企業の管理に欠かすことの出来ない実践的知識について、前期は実際の現代のもの作りの現場をビデオ教材中心に学習する。ともすれば、机上の空論になりがちな社会科学で、本科目は、“百聞一見に如かず”の諺を実践したい。

授業計画
第１回　**生産管理の目的**
第２回　**生産管理の仕組み1**
第３回　**生産管理の仕組み2**
第４回　映像による生産現場学習１（コストダウン　マツダ自動車）
第５回　映像による生産現場学習２（長寿企業の秘密）
第６回　映像による生産現場学習３（日本鋼管君津製作所）
第７回　映像による生産現場学習４（技術開発の最先端―ｄｅｎｓｏ基礎技術研究所）
第８回　映像による生産現場学習５（一人屋台方式）
第９回　映像による生産現場学習６（ＳＣＭ　キリンビールなど）
第 10 回　映像による生産現場学習７（トヨタ自動車かんばん生産方式）
第 11 回　映像による生産現場学習８（日本再建―元気な企業の条件）
第 12 回　現代製造業と市場、未来工場
第 13 回　現代製造業と企業環境
第 14 回　生産価値分析１
第 15 回　生産価値分析２
第 16 回　期末レポート

テキスト	**田中一成著　「図解生産管理　基本の基本からＳＣＭ，ＥＲＰまで」日本実業出版社、プリント教材**
参考文献	**『生産管理の基礎テキスト』、日本能率協会マネジメントセンター、『新ＩＥ入門シリーズ』、第1巻～１１巻　平野裕之著　日刊工業新聞社**
単位認定の方法	**出席、期末レポート、講義レポート、各 33%、出席率 63%以下は認定対象外**
内容的に関連する科目	**経営管理、経営学**

科　目　名	流通システムⅠ	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Distribution System Ⅰ	2	前期	2
ふりがな 担当者名	なかむら　かずひこ 中村　和彦	テーマ	流通に関する基礎理解	

【授業概要】流通は生産者と消費者を結びつなぐ重要な役割と機能をもち、我々の生活と深く関わっている。流通には商取引流通と物的流通の二大機能があり、流通活動に携わる製造業、卸売業、小売業、運輸業などが互いにつながりをもって流通経路を構築している。

本講義では、流通の役割や仕組み、流通業の基礎知識から、業界史、流通企業の現状や課題など、流通システムだけをクローズアップするのではなく、事例を取り入れながら、幅広く流通全般をわかりやすく学習していく（流通システム論ⅠとⅡを続けて履修するのが望ましい）。

授業計画	
第１回	ガイダンス
第２回	流通業界史
第３回	流通の構造　流通の機能
第４回	流通の役割としくみ
第５回	流通革新、　流通系列化
第６回	商流、物流のしくみ、ロジスティクス、サプライチェーン・マネジメント
第７回	流通機構、　卸売業、小売業
第８回	業態別流通システム　百貨店
第９回	業態別流通システム　スーパーマーケット
第 10 回	業態別流通システム　コンビニエンス・ストア
第 11 回	業態別流通システム　ホームセンター、スーパーセンターなど
第 12 回	業態別流通システム　ドラッグストア、量販店など
第 13 回	流通行政と社会適応　大店法　、街づくり三法
第 14 回	日本の流通システム
第 15 回	前期授業の総括
第 16 回	期末試験

テキスト	講義毎にレジュメ・資料を配布し、それをもとに講義を進める
参考文献	コトラー&アームストロング『マーケティング原理』ダイヤモンド社など
単位認定の方法	平常点（50 点）と期末試験（50 点）の総合評価
内容的に関連する科目	マーケティング・マネジメント、販売士講座、マーケティング、観光産業入門

科　目　名	国際社会と法	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	International community and law	2	前期	4
ふりがな 担当者名	よしだ　たくや 吉田　拓也	テーマ	国際法	

【授業概要】国際社会を基盤とする法である国際法とは何か？この問題を常に側におきながら、国際法の基本的問題を考察する。
　なお、一年生配当の「国際政治のあゆみ（旧「政治地理学」）」を修得していることを前提として講義する。また、相当の読書量が必要となる。

授業計画	
第１回　イントロダクション 国際法学の概念と検討対象	第 16 回　紛争の平和的解決① 紛争の平和的解決義務、解決手続の分類
第２回　国際社会と国際法① 主権国家体制、主権概念	第 17 回　紛争の平和的解決② 国際裁判、国際司法裁判所、勧告的意見
第３回　国際社会と国際法② 共存の国際法、協力の国際法	第 18 回　戦争と国際法① 武力行使禁止　自衛権、集団的安全保障体制
第４回　国家と国際法① 国家の成立　政府変動、国家承継	第 19 回　国際人道法と軍備管理 武力紛争における原則　核兵器不拡散条約
第５回　国家と国際法② 国家の基本権　国家管轄権の概念と機能	第 20 回　陸の国際法 領域の法的性格、権原、日本の領土問題
第６回　国家と国際法③ 国家機関、主権免除	第 21 回　海の国際法① 自由海論と閉鎖海論　海洋二分論、
第７回　国際法上の主体 国際組織と個人の法主体性	第 22 回　海の国際法② 領海、排他的経済水域、大陸棚　深海底
第８回　まとめ	第 23 回　空と宇宙の国際法 領空主権、国際民間航空、宇宙の法的地位
第９回　国際法の存在形態 国際法の法源、条約、慣習国際法、法の一般原則	第 24 回　まとめ
第 10 回　国際慣習法 国際慣行、法的確信、インスタント慣習法論	第 25 回　人と国際法① 国籍、外国人の法的地位
第 11 回　条約法① 条約締結手続、全権委任状、署名、批准	第 26 回　人と国際法② 国際人権法、国際人権の履行確保、難民
第 12 回　条約法② 留保、効力、解釈　条約の終了および運用停止	第 27 回　　国際刑事法① 国際犯罪の類型、普遍的管轄権、国際刑事裁判所
第 13 回　国際法と国内法 一元論と二元論　国際法と国内法の相互作用	第 28 回　国際刑事法② 犯罪人引渡、政治犯
第 14 回国家責任① 国家責任の構成要件　国際違法行為と国の行為	第 29 回　国際環境法① ストックホルム人間環境会議、リオ・サミット
第 15 回　　国家責任② 違法性阻却自由、国際責任の追及、外交的保護権	第 30 回　国際環境法② 気候変動枠組条約、京都議定書、予防アプローチ

テキスト	中谷和弘など著『国際法』（有斐閣アルマ、2006 年） 大沼保昭など編『国際条約集 2009 年度版』（有斐閣）　（必携）
参考文献	初回の講義の中で詳しく提示する。随時、プリントで資料を配布する。
単位認定の方法	レポート課題、テスト、試験
内容的に関連する科目	国際政治のあゆみ

科　目　名	民法の入門	分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Introduction to Civil Law	1	前期	4
ふりがな 担当者名	とよ　だ　まさ　あき 豊　田　正　明	テーマ	民法の学び方と民法総則の知識習得	

【授業概要】
本講義は、講義形式で行われるのを基本とします。講義では、民法全般・民法総則について基本的な理解を深め、問題となっているところにも触れることにより、理解を深めることを目的とします。なお、講義中質問することがありますので、予習は不可欠です。

授業計画	
第１回　ガイダンス	第 17 回　意思の欠缺
第２回　民法とは、民法の歴史	第 18 回　瑕疵ある意思表示
第３回　民法の基本原理	第 19 回　意思表示の到達、受領能力
第４回　私権、私権の共有	第 20 回　代理とは
第５回　権利能力とは	第 21 回　無権代理の種類
第６回　意思能力、行為能力	第 22 回　無権代理の問題点
第７回　制限行為能力者	第 23 回　表見代理の種類
第８回　住所、不在者と失踪宣告	第 24 回　表見代理の問題点
第９回　法人、意義と種類	第 25 回　無効と取消し
第 10 回　法人の能力	第 26 回　条件、期限
第 11 回　法人の期間	第 27 回　期間とは
第 12 回　私権の客体、物	第 28 回　時効とは
第 13 回　法律行為	第 29 回　援用と放棄
第 14 回　意思表示	第 30 回　時効の中断、停止
第 15 回　復習①	第 31 回　復習②
第 16 回　中間試験	第 32 回　期末試験

テキスト	最初の講義の時に指示する。六法必須。
参考文献	最初の講義の時に指示する。
単位認定の方法	出席および定期試験による。2/3 以上の出席は必須。
内容的に関連する科目	生活と物権、請求権の性質、債権各論、親族相続法

科　目　名	さまざまな契約 （債権各論）	分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	前　期	4
ふりがな 担当者名	めん　かんそぷ 孟　　觀燮	テーマ		

【授業概要】
債権各論は、契約、事務管理、不当利得、不法行為に分かれています。実際の事例も見ながら、債権発生原因について一緒に考えることを目的とします。

授業計画	
第１回　契約の基礎Ⅰ	第 17 回　消費貸借、使用貸借
第２回　契約の基礎Ⅱ	第 18 回　賃貸借Ⅰ
第３回　契約の基礎Ⅲ	第 19 回　賃貸借Ⅱ
第４回　契約の成立	第 20 回　賃貸借Ⅲ
第５回　契約の効力Ⅰ	第 21 回　請負Ⅰ
第６回　契約の効力Ⅱ	第 22 回　請負Ⅱ
第７回　契約の効力Ⅲ	第 23 回　委任Ⅰ
第８回　契約の解除Ⅰ	第 24 回　委任Ⅱ
第９回　契約の解除Ⅱ	第 25 回　寄託
第 10 回　契約の解除Ⅲ	第 26 回　組合、和解
第 11 回　売買Ⅰ	第 27 回　事務管理Ⅰ
第 12 回　売買Ⅱ	第 28 回　事務管理Ⅱ
第 13 回　売買Ⅲ	第 29 回　不当利得Ⅰ
第 14 回　贈与	第 30 回　不当利得Ⅱ
第 15 回　前期分のまとめ	第 31 回　後期分のまとめ
第 16 回　テスト	第 32 回　テスト

テキスト	角　紀代恵著「債権各論Ⅰ」（新世社）
参考文献	
単位認定の方法	試験と出席状況等で評価
内容的に関連する科目	

科　目　名	家族法の基礎 （親族相続法）	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Family Law	3	通年	4
ふりがな 担当者名	とよだ　まさあき 豊　田　正　明	テーマ	身近な法律としての家族法	

【授業概要】
本講義は、講義形式で行われるのを基本とします。講義では、親族法・相続法について基本的な理解を深め、問題となっているところにも触れることにより、理解を深めることを目的とします。なお、講義中質問をしますので、予習は不可欠です。

授業計画	
第１回　ガイダンス、親族相続法の史的素描	第 17 回　相続の意義
第２回　氏と戸籍	第 18 回　相続権とその侵害
第３回　家庭内の揉め事とその処理	第 19 回　相続人とその順位
第４回　婚姻	第 20 回　相続欠格と相続人の廃除
第５回　婚姻の無効・取り消し	第 21 回　相続財産の範囲
第６回　婚姻の効力	第 22 回　法定相続分、具体例の計算
第７回　婚姻の解消	第 23 回　特別受益者の相続分
第８回　内縁とその保護	第 24 回　寄与分
第９回　婚姻法改正案等	第 25 回　遺産分割
第 10 回　親子	第 26 回　相続の承認・放棄
第 11 回　養子	第 27 回　相続人不存在・特別縁故者
第 12 回　親権	第 28 回　遺言の方式・効力・書き方
第 13 回　後見、保佐、補助	第 29 回　遺留分
第 14 回　扶養	第 30 回　遺留分を侵害された場合
第 15 回　復習①	第 31 回　復習②
第 16 回　中間試験	第 32 回　期末試験

テキスト	有斐閣Ｓシリーズ『民法Ｖ』第５版　有斐閣
参考文献	家族法判例百選　第７版　有斐閣。
単位認定の方法	出席および定期試験による。2/3 以上の出席は必須。
内容的に関連する科目	民法の入門、生活と物権、請求権の性質、債権各論

科　目　名	保険の法律 （保険法）	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Insurance Law	3	前期	2
ふりがな 担当者名	みちはた　ただよし 道端　忠孝	テーマ	保険・共済の役割と法的しくみ	

【授業概要】

保険法の対象とする保険は、共済などの実質的に保険と同じものを包含しています。この保険は、社会生活に存する危険や不安に備える制度で、民間の生命保険や損害保険（自動車保険や火災保険など）のほか、JA 共済（自動車共済・生命共済など）や県民共済、生協の COOP 共済などです。

さまざまな危険や不安のある現代社会において欠くことのできない制度であり、この保険制度の役割と仕組みを法的に講義していきたい。

授業計画
第１回　保険の意義と機能
第２回　保険制度のしくみ
第３回　保険契約の特色
第４回　損害保険の特色
第５回　損害保険の成立
第６回　損害保険の変動
第７回　保険代位
第８回　保険担保
第９回　責任保険
第 10 回　自動車保険
第 11 回　生命保険の特色
第 12 回　生命保険の成立・変動
第 13 回　生命保険の担保・処分
第 14 回　傷害疾病損害保険
第 15 回　傷害疾病生命保険
第 16 回　定期試験

テキスト	講義時に指示する。
参考文献	講義時に指示する。
単位認定の方法	定期試験（出席回数２/3 未満は受験資格なし）
内容的に関連する科目	商法の入門、会社の法律

科　目　名	国際社会の歴史 −ヨーロッパ近代史—	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	History of Modern Europe	1	通年	4
ふりがな 担当者名	あそむら　くにあき 阿曽村　邦昭	テーマ	近代西ヨーロッパを中心とする政治史。文化をも随時取り上げる。	

【授業概要】近代的な意味における国際社会は、まずヨーロッパ、ことに西ヨーロッパで成立し、発展した。近代ヨーロッパの政治、経済、思想、科学、技術、軍事、文化は、今日においても全世界に深い影響を与えている。この講義は、近代ヨーロッパに起源を有する国際社会の主として政治面での歴史を扱いつつ、ヨーロッパ各国の国民性、文化，習慣などを教員自身の経験に基ずき、論ずることとする。
ヨーロッパ各地の風景やオペラ、バレー、演劇、絵画なども歴史的な背景に照らし味わってもらうようにしたいと考えている。

授業計画	
第１回　ヨーロッパを知ることはなぜ必要なのか？	第 17 回　ワーグナーと楽劇、ゲルマン神話とドイツナショナリズム
第２回　比較文明的に見たヨーロッパの特徴（日本との対比）	第 18 回　ワーグナー「ローエングリン」鑑賞
第３回　西ヨーロッパの成立（ローマ、キリスト教、ゲルマン）	第 19 回　１９世紀の終焉と第一次世界大戦
第４回　中世から近世へーイスラムとの関係（十字軍）	第 20 回　ロシア革命　I
第５回　ルネッサンスと宗教改革	第 21 回　II(革命の非人間的側面、映画ドクトルル．ジバゴ鑑賞)
第６回　近代国際社会成立の契機としての３０年戦争･ウェストファリア条約とその結果‘（戦争発生の震源地プラハの市街紹介）—	第 22 回　ヴェルサイユ体制の成立と問題点（民族自決の欺瞞、人種不平等、過酷な対独政策）
第７回　ローマカトリックの失地回復運動とポルトガル、スペインの海外発展（アステカ帝国とインカ帝国の滅亡）	第 23 回　ヒットラー、ムッソリーニ、フランコーファッシズムの意図と結末、^日本型ファシズムとの違いー
第８回　絶対王政期ヨーロッパの特徴—フランスと英国の例—	第 24 回　チャップリンの「独裁者」の内容と意義
第９回　市民的政治体制の形成と発展　I（米国の独立とフランス革命への影響）	第 25 回　第二次世界大戦の終焉と冷戦の開始
第 10 回　市民的政治体制の形成と発展 II（フランス大革命とナポレオン）	第 26 回　ヒットラーの最後の日々を扱った映像紹介
第 11 回　市民芸術の勃興とモーツアルトのオペラ（映像使用）	第 27 回　冷戦の終焉と新たな国際危機—テロ、内戦、難民、経済格差の拡大、環境問題—
第 12 回　ナポレオンと絵画（芸術の政治的利用例）	第 28 回　最近のヨーロッパ演劇の好例としての「シラノドベルジュラック」
第 13 回　ウイーン体制の成立と没落（中南米の独立）	第 29 回　同上
第 14 回　パックスブリタニカの中でのオペラバレーの発達と実例鑑賞	第 30 回　ロシア人が作り、日本人が演出した古代インドを舞台にしたバレー「バャデール」について
第 15 回　発展途上国の国威発揚手段としての芸術—ヴエルディの「アイーダ」の事例	第 31 回　講義のまとめ
第 16 回　試験	第 32 回　試験

テキスト	福井憲彦「近代ヨーロッパ史」、放送大学教育振興会、オペラについては追って指示する。
参考文献	
単位認定の方法	出席と試験。聴講者の人数にもよるが、オペラとバレーに関してはレポートを課することも検討している。
内容的に関連する科目	

科　目　名	国際政治のあゆみ	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Introduction to international politics	1	通年	4
ふりがな 担当者名	よしだ　たくや 吉田　拓也	テーマ	国際政治入門	

【授業概要】
大芝亮など『平和政策』(有斐閣、2006)を読み解くことによって、国際政治の諸問題を理解するための目を持つことを目的とする。この講義では、相当の読書量と調査能力が要求される。
なお、初回の講義までに、序章「政策としての平和」を熟読し、各自のコメントを用意してくること。

授業計画	
第１回　イントロダクション 講義の内容及び方針、参考文献などの紹介	第 17 回　軍事介入① 武力行使禁止原則、人道的介入、自衛権
第２回　国際社会の構造 ３０年戦争、ウエストファリア条約、主権国家体制	第 18 回　軍事介入② テロ時代の軍事介入　アメリカの帝国化？
第３回　国際社会の見方① 現実主義、勢力均衡、覇権	第 19 回　平和構築における政治・法制度の整備 支援主体、法制度支援、法執行支援、司法支援
第４回　国際社会の見方② リベラリズム、相互依存、デモクラティック・ピース	第 20 回　紛争後選挙と選挙支援 選挙実施の意義、選挙支援システム、平和構築
第５回　グローバリゼーションと紛争 冷戦後の紛争、アイデンティティ、非国家主体	第 21 回　国際刑事法 国際刑事裁判所の意義と内容
第６回　国際法と国際組織の役割 国際法の性質、国際組織の種類と役割	第 22 回　国際刑事法と国内刑法 国際刑事法の国内法制度化
第７回　地域機構 地域機構の種類と役割、EU、ASEAN	第 23 回　開発協力① 開発とは何か。
第８回　紛争と国際経済組織 戦間期、ブレトンウッズ体制、世界貿易機関	第 24 回　開発協力② 開発協力の方法
第９回　まとめ	第 25 回　まとめ
第 10 回　植民地支配の遺産と開発途上国 植民地諸国の独立、モノカルチャー	第 26 回　平和構築とジェンダー 国際関係におけるジェンダー、構造的暴力
第 11 回　兵器の規制 大量破壊兵器、軍備管理	第 27 回　NGO と市民社会① NGO の分類、NGO の特性
第 12 回　核兵器 核兵器、核軍拡と核戦略、核軍縮	第 28 回　NGO と市民社会② NGO の活動、ジャパン・プラットフォーム
第 13 回　人の移動と難民問題 移民、難民、出入国管理	第 29 回　平和構築のために 「平和とは何か」
第 14 回　テロリズムとテロ対策 国際テロリズムの動向、テロ対策の４つのフェーズ	第 30 回　まとめ
第 15 回　まとめ	第 31 回　総まとめ
第 16 回	第 32 回

テキスト	大芝亮など『平和政策』(有斐閣、2006)
参考文献	初回の講義の中で詳細な解説をする。
単位認定の方法	課題の発表、レポート、確認テストなど。
内容的に関連する科目	国際社会と法

科　目　名	日本の観光地理	分類	専門科目・観光学科必修 法律学科選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Tourist Geography of Japan	1	前期	2
ふりがな 担当者名	上村（うえむら）　康之（やすゆき）	テーマ	日本の観光地の立地と成り立ち	

【授業概要】
観光に関する基本事項を概説したのち、総論として現在の日本の観光地をとりまく状況、各論として北海道、東北、三大都市圏、九州、南西諸島の具体的な観光地をとりあげ概説する。テキスト欄に地図帳を指定しているが、この地図帳でなくとも高等学校で使用したものがあれば持参して授業に臨んでください。なお、「総合・国内旅行業務取扱管理者試験」を目指す学生は「観光地理」が必須であり受講を勧める。

授業計画
第１回　　ガイダンス～　観光地理とは
第２回　　観光の基本１
第３回　　観光の基本２
第４回　　日本における観光地の動向と課題１
第５回　　日本における観光地の動向と課題２
第６回　　日本の観光地域１　北海道
第７回　　日本の観光地域２　北東北
第８回　　日本の観光地域３　南東北
第９回　　日本の観光地域４　三大都市圏
第 10 回　日本の観光地域５　九州
第 11 回　日本の観光地域６　南西諸島
第 12 回　観光と地域振興１
第 13 回　観光と地域振興２
第 14 回　観光と地域振興３
第 15 回　まとめ
第 16 回　後期試験

テキスト	（財）日本交通公社編『観光読本』東洋経済新報社、2004 年
参考文献	帝国書院編集部『新詳高等地図　初訂版』帝国書院、2008 年
単位認定の方法	定期試験と授業内レポート
内容的に関連する科目	地理学の基礎Ⅰ・Ⅱ、グリーンツーリズム論、 人間と地域、自然と地理

科　目　名	仕事と法律 （労働法）	分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Labour Law	3	前期	4
ふりがな 担当者名	きむら　きよし 木　村　　澄	テーマ	労働者保護の基礎を学ぶ	

【授業概要】

国民の大多数をしめる労働者にとって、労働法とのかかわりは日々のことである。労働者が働くことは、単に労使の関係にとどまらず、労働者の家族生活全体に直接のつながりをもつことから、よりよい労働条件は生活水準を向上させ、ひいては国民全体の経済的・文化的水準の向上をもたらす。労働法は、資本主義社会の労働者の生活の向上を目的とする制度的手段を提供する法である。本講義では、労働法はなぜに生まれ、どのような性格と仕組みのなかでいかに機能しているかを個別的諸問題を取り上げながら講義する。

授業計画	
第１回　労働法の生成のプロセス	第 17 回　労働時間(3)
第２回　労働基本権	第 18 回　年次有給休暇(1)
第３回　個別的労働関係の構造	第 19 回　年次有給休暇(2)
第４回　就業規則(1)	第 20 回　企業秩序と懲戒(1)
第５回　就業規則(2)	第 21 回　企業秩序と懲戒(2)
第６回　労働契約の成立(1)	第 22 回　労働関係の終了
第７回　労働契約の成立(2)	第 23 回　団体的労使関係の構造
第８回　均等待遇の原則	第 24 回　団結権
第９回　男女雇用機会均等法(1)	第 25 回　団体交渉権
第 10 回　男女雇用機会均等法(2)	第 26 回　労働協約
第 11 回　労働者の人権の擁護	第 27 回　団体行動権(1)
第 12 回　賃金(1)	第 28 回　団体行動権(2)
第 13 回　賃金(2)	第 29 回　不等労働行為(1)
第 14 回労働時間(1)	第 30 回　不等労働行為(2)
第 15 回労働時間(2)	第 31 回　労働争議の調整
第 16 回　中間試験	第 32 回　期末試験

テキスト	プリントを配布します。
参考文献	菅野和夫『労働法』弘文堂
単位認定の方法	授業態度、出席状況、中間試験、期末試験
内容的に関連する科目	社会政策、外国の法律との比較

科　目　名	民事の裁判 （民事訴訟法）	分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	The Law of Civil Procedure	3	前期	4
ふりがな 担当者名	かわぐち　まこと 川口　　誠	テーマ		

【授業概要】大きく変化・流動する現代社会の法的環境に対応するため、民事訴訟法が全面改正され、続く関連諸制度の改正・整備により、この１０年で民事訴訟法関連分野は大きく姿を変えました。民事訴訟法は、私人の日常生活上の紛争を法的に解決する方式に関する一般法であり、民訴法学は、その訴訟を含むあらゆる民事紛争の解決方式および関連諸制度について、あるべき形態と理想の有機的構成を考察するものです。

実体法を中心に学んできた学生諸君にとって、手続法は異質であるためか、難解だと思われがちです。訴訟を１個のシステムととらえ、全体的視点から基本構造・理念をおさえ、これを基に細部を検討する方法で、より容易に理解できるはずです。この森全体の構造、骨格、システムの設計方針の理解を目指します。

授業計画	
第１回ガイダンス 民事紛争とその解決方法(1)	第 17 回 口頭弁論の準備・争点整理(1)
第２回　民事紛争とその解決方法(2)	第 18 回 口頭弁論の準備・争点整理(2)
第３回　民事紛争とその解決方法(3) ADR	第 19 回 口頭弁論と審理に関する諸原則
第４回　訴訟　主体Ⅰ 当事者と訴訟上の代理人(1)	第 20 回 証拠・証拠調べ　(1)種類等
第５回　当事者と訴訟上の代理人(2)	第 21 回　(2)集中証拠調べ
第６回　訴訟の主体Ⅱ　裁判所・管轄(1)	第 22 回 証拠の評価・証明責任
第７回　裁判所・管轄(2)	第 23 回 訴訟の終了(1)当事者の行為等
第８回　訴訟の開始と進行 (1) 訴え	第 24 回　(2)終局判決による訴訟の終了
第９回　(2) 訴訟の客体　訴訟物(1)	第 25 回　(3)判決の効力　既判力など
第 10 回　訴訟物(2)	第 26 回 複雑な訴訟形態(1)複数請求訴訟(1)
第 11 回 訴訟の審理過程　裁判所と当事者の分担	第 27 回　複数請求訴訟(2)
第 12 回 (1)裁判資料収集　当事者イニシアチブ(1)	第 28 回　(2)多数当事者訴訟(1)
第 13 回　当事者イニシアチブ(2)	第 29 回　多数当事者訴訟(2)
第 14 回 (2)審理進行　裁判所イニシアチブ(1)	第 30 回 上訴・再審
第 15 回　裁判所イニシアチブ(2)	第 31 回 少額訴訟等
第 16 回 中間試験	第 32 回 後期試験

テキスト	上原他著『民事訴訟法［第５版］』有斐閣Ｓシリーズ（有斐閣）。他にプリントも配布予定。
参考文献	講義で指摘する。
単位認定の方法	試験の結果に出席状況の評価を合わせて、総合評価。
内容的に関連する科目	民法等の民事実体法、民事執行法、破産法など

科　目　名	企業と個人の倒産 （破産法）	分類	専門・専門	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Bankruptcy and Insolvency Law	3	前期	4
ふりがな 担当者名	かわぐち　まこと 川口　　誠	テーマ		

【授業概要】平成 12 年に民事再生法、翌 13 年には改正民事再生法（個人倒産への対応）と外国倒産処理手続の承認援助法（国際倒産への対応）、15 年に新会社更生法、さらに 17 年に新倒産法が施行されました。また、平成 18 年には会社法の施行で、会社整理手続が廃止され、特別清算手続きが新しくなりました。これにより、倒産処理法の分野が全面的に装いを新たにし、倒産処理法制は大きな変化を遂げました。

従来、「破産法」という科目は名前のごとく破産法中心で、他の倒産法制はあまり触れられませんでしたが、講義では、新倒産処理法制全体を、横断的、立体的に把握し、状況と問題点の理解を目指します。倒産という事態に、法がどのように関わるか、関わるべきかを、高い視点から広角的に把握できればと思います。

授業計画	
第１回　【総論】「倒産」の現状と諸制度(1)	第 17 回　国際倒産法制(1)　旧倒産法制と属地主義(1)
第２回　「倒産」の現状と諸制度(2)	第 18 回　旧倒産法制と属地主義(2)
第３回　法的倒産処理制度　再建型１ 民事再生手続(1)	第 19 回　国際倒産法制(2) 改正民事再生法と国際倒産(1)
第４回　民事再生手続(2)	第 20 回　改正民事再生法と国際倒産(2)
第５回　法的倒産処理制度　再建型２ 会社更生手続(1)	第 21 回　外国倒産処理手続承認援助法と国際倒産(1)
第６回　会社更生手続(2)	第 22 回　国際倒産(2)
第７回　法的倒産処理制度　清算型１ 破産手続(1)	第 23 回【各論】民事再生手続・新破産手続を 中心として　手続の流れ(1)
第８回　破産手続(2)	第 24 回　手続の流れ(2)
第９回　法的倒産処理制度　清算型２ 新会社法での特別精算手続(1)	第 25 回　機関と利害関係人の地位(1)
第 10 回　新会社法での特別清算手続(2)	第 26 回　機関と利害関係人の地位(2)
第 11 回　任意整理（私的整理）(1)	第 27 回　倒産債権の確定等(1)
第 12 回　任意整理（私的整理）(2)	第 28 回　倒産債権の確定等(2)
第 13 回　消費者倒産制度 (1)小規模個人再生手続き	第 29 回　手続の進行と終了(1)
第 14 回　(2)給与所得者等再生手続き(1)	第 30 回　手続に進行と終了(2)
第 15 回　(3)給与所得者等再生手続き(2)	第 31 回　倒産犯罪
第 16 回　中間試験	第 32 回　後期試験

テキスト	山本(和)著『倒産処理法入門[第３版]』(有斐閣)。プリントも配布。
参考文献	講義で指摘する。
単位認定の方法	試験の結果に出席評価を合わせて総合評価
内容的に関連する科目	民法、会社法などの民事実体法、民事訴訟法、民事執行法など